

科目名称		開かれた学校づくりの事例と実践演習（昼間） (担当教員名： 大野裕己，安藤福光)	
課 程	： 大学院（専門職）2年次	開講学期	： 前期
授業形態	： 講義・演習	授業規模	： 受講者 16 人
インタビュー対象教員名 大野裕己 (実施日時：7月21日（火）12時20分～12時50分；実施場所：総合研究棟3階小会議室)			
インタビュー対象受講者名 受講者は全員修了しているため、インタビューを実施することができなかった。			
選定理由			
<p><u>1. 授業担当教員へのインタビュー（概要）</u></p> <p>コース最後の履修科目（課題研究を除く）ということもあり、今までの学びが総合できるように、理論と実践の往復や学生同士の密度の高いコミュニケーションを心がけている。</p> <p>自由記述に多く挙げられた、「ゲストスピーカー」に関しては、開かれた学校づくりに関連する様々な制度を「使いこなしている」人という基準で、該当する修了生等を招いて兵庫教育大学のDNAを感じてもらったり、制度を活用した実践の開拓者を招いたりなど、将来なっしてほしい姿を見せるという工夫をしているとのことであった。また、「フィールドワーク」に関しては、修了生の実際の学校現場に行き、どのように使いこなしており課題は何であるのか等を、学校や地域の様子も踏まえて感じられるようにしているようである。「理論と実践の融合」に関しては、理論を説明した上で、演習をして、その後確認するというように理論と実践の往復をして、より内容を深めているようである。</p> <p>受講生の授業を受けている印象としては、授業内容の理解が高く、演習などの準備をしてくるなど意欲的であった。</p>			
<p><u>2. 受講生へのインタビュー（概要）</u></p> <p>(受講生は全員修了しているため、インタビューを実施することができなかった。)</p>			
<p><u>3. 総 括</u></p> <p>学生の意欲が高く、その気持ちに応えるために教員も授業に力を入れる等、互いを高め合いながら共に授業を開拓しているようだった。</p> <p>また、ゲストスピーカーに修了生を呼ぶことで、修了生も学び直し、お互いに授業をつくっているようである。</p> <p>理論と実践を往復することで、より理解深められる授業構成がうかがえた。</p>			